

平成21年度の予算要求に向けた経済産業省の基本的スタンス

①iPS細胞研究の更なる推進

- 2007年に作製された革新的技術であるiPS細胞は、再生医療や創薬分野での活用が期待されているが、国際間の競争が激化している状況。
- 経済産業省としては、日本のiPS細胞の産業化を促進するという観点から、安全かつ効率的なiPS細胞作製のための基盤技術、細胞の選別・評価技術、創薬支援技術等の研究開発の推進を図っていく予定。

②先進的医療機器の研究開発の更なる推進

- 我が国の優れた技術を活用し、患者の生活の質の向上に資する高度な医療機器の実用化に向けた研究開発を実施。
- 具体的には、生体の分子・細胞レベルの機能変化から早期診断を行う技術、病巣部を正確に捉え最小限の切除で治療する診断・治療一体型医療機器などの早期実用化を促進する。

③基礎研究から臨床への円滑な橋渡しの更なる推進

- 平成19年度より、経済産業省では、「基礎研究から臨床への橋渡し促進技術開発」を通じた橋渡し研究への支援を行っているところ。
- 橋渡し研究や臨床研究の更なる拡充を図るため、先端医療開発特区(スーパー特区)や健康研究推進会議等を通じて、各府省との連携を図りつつ、効果的かつ効率的な運用を促進する。
- 先進的医療機器を迅速に医療現場に届けるため、厚生労働省との連携の下、医療機器開発ガイドラインの策定など、環境整備を促進する。